

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(学校教育研究科 人間教育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理臨床コース	子どものこころへのアプローチ	1前		2		○			4	2					オムニバス
	臨床心理学統計法	1後		2		○					1				
	福祉分野に関する理論と支援の展開(障害者(児)心理学特論)	1前		2		○			2	1	1				オムニバス・共同(一部)
	教育分野に関する理論と支援の展開(教育心理学特論)	1前		2		○			2	1					オムニバス・共同(一部)
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開(犯罪心理学特論)	1休		2		○								兼1	集中
	心の健康教育に関する理論と実践	1後		2		○			3	2					オムニバス
	臨床心理学研究I	1前		2		○				1					
	臨床心理学研究II	2前		2		○			1						
	臨床心理面接研究I	1後		2		○			2						オムニバス
	臨床心理面接研究II	2前		2		○			1						
	グループアプローチ論	1・2休		2		○								兼1	集中
	臨床心理学研究法特論	1前		2			○		4	2	2				オムニバス
	臨床心理面接演習	1前		2			○		4	2	2				
	臨床心理査定演習II	1後		2			○		1		1				オムニバス・共同(一部)
	臨床心理基礎実習	1通		2				○	4	2	2				
	保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)	1前		2		○			1		1				オムニバス
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1休		2		○					1				集中
	心理的アセスメントに関する理論と実践(臨床心理査定演習I)	1前		2		○			3	2	1				オムニバス・共同(一部)
	心理支援に関する理論と実践	1前		2		○			1	1	1				オムニバス
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践(家族心理学特論)	1前		2		○			1		1				オムニバス・共同(一部)
	心理実践実習I	1通		1				○	4	2	2				
	心理実践実習II(臨床心理実習)	2通		2				○	4	2	2				
	心理実践実習III	2通		1				○	4	2	2				
	心理実践実習IV	1通		2				○	4	2	2				
	心理実践実習V	2通		4				○	4	2	2				
	臨床心理実習II	2通		1				○	4	2	2				
	心の発達・教育創造研究	1・2前		2		○			1						※演習
	心の発達・教育創造演習	1・2後		2			○		1						
	心理教育科学研究	1・2前		2		○				1					※演習
	心理教育科学演習	1・2後		2			○			1					
心理・教育科学測定・評価演習	1・2後		2			○		1	1					オムニバス ※講義	
予防教育開発・実施演習	1通		4			○		1	1					共同 ※講義	
臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)	1・2前		2		○			1						※演習	
生理心理学	1・2前		2		○			1						※演習	

専門科目

	障害心理学研究方法演習	1・2後	2		○		2					オムニバ ス・共同	
	障害臨床学特論	1・2後	2		○		2					オムニバ ス・共同 ※演習	
	障害発達支援国際比較研究	1・2前	2		○		2					オムニバ ス・共同	
	コミュニティ障害共生支援演習	1通	4		○		2					オムニバ ス・共同	
現代教育課題総合コース	社会認識の方法	1・2前	2		○		1						
	社会分析の実践	1・2後	2		○		1						
	現代の子どもと学校教育	1・2前	2		○			1					
	現代教育人間論	1・2後	2		○		1	1				共同	
	コミュニケーションと環境	1・2前	2		○			2				共同	
	環境と文化	1・2前	2		○			1				アテ'イ含む	
	文化とコミュニケーション	1・2前	2		○		1	1				共同	
	人間と文化Ⅰ	1・2前	2		○		1	1				共同	
	人間と文化Ⅱ	1・2前	2		○		1						
	人間と環境Ⅰ	1・2後	2		○			1					
	人間と環境Ⅱ	1・2前	2		○			1					
	人間とコミュニケーションⅠ	1・2後	2		○			2				共同	
	人間とコミュニケーションⅡ	1・2後	2		○			2				共同	
	自然科学の世界：進化生物学をモデルとして	1・2前	2		○			1					
	自然科学の方法Ⅰ	1・2後	2		○			1					
	自然科学の方法Ⅱ	1・2後	2		○					1			
	学校教育の人間形成的役割	1・2前	2		○		1					兼2	アテ'イ・社ニバ ス・共同(一部)
	子ども理解と生徒指導	1・2前	2		○		1	1					アテ'イ 社ニバ'ス
	現代教育実践論	1・2前	2		○				1				アテ'イ
	現代学校文化論	1・2後	2		○				1				アテ'イ
	現代学習環境論	1・2前	2		○			1					アテ'イ
	現代教育情報論	1・2後	2		○			1					アテ'イ
	学校経営・授業改善と情報化	1・2後	2		○			1					アテ'イ
	教育情報化特論Ⅰ（教材・授業開発論）	1・2前	2		○			1					アテ'イ
	教育情報化特論Ⅱ（実践論）	1・2前	2		○			1					アテ'イ
	学校危機管理研究	1・2後	2		○							兼1	アテ'イ
	予防教育科学	1・2後	2		○			1					アテ'イ
	教育実践フィールド研究（総合）	1・2通	4		○			1	1				アテ'イ・共同
国際教育人間論	1・2前	2		○				2			兼1	共同	
教育研究・調査	1・2前	2		○		1	1					共同	
国際教育特論	1・2後	2		○		1	1				兼1	共同	
国際教育演習	1・2後	2		○		1	1				兼1	共同	
国際教育協力研究	1・2前	2		○			2					共同	
国際教育協力特論Ⅰ	1・2後	2		○			2					共同	
国際教育協力特論Ⅱ	1・2前	2		○		1	1					共同	
国際教育授業開発	1・2前	2		○		1	1				兼1	共同	

グローバル教育コース	国際教育協力演習	1・2前	2			○		1	1					共同
	国際教育総合セミナーⅠ	1・2前	2			○		1	2					兼1 共同
	国際教育総合セミナーⅡ	1・2後	2			○		1	2					兼1 共同
	国際教育学内容論	1・2前	2			○		1						
	数学教育協力研究	1・2前	2			○				1				
	数学教育協力授業研究	1・2後	2			○		1		1				ムニハス
	数学教育協力教材開発研究	1・2後	2			○		1		1				ムニハス
	国際教育理科内容論	1・2前	2			○		1	1					※演習 共同
	理科教育協力研究	1・2前	2			○		1	1					※演習 共同
	理科教育協力授業研究	1・2後	2			○		1	1					※講義 共同
	理科教育協力教材開発研究	1・2後	2			○		1	1					※講義 共同
	日本語文法研究	1・2前	2			○			1					
	日本語音声表現研究	1・2前	2			○			1					
	日本語語彙論	1・2後	2			○			1					
	社会言語学研究	1・2休	2			○								兼1 集中
	言語習得・発達論	1・2前	2			○			1					※演習
	日本語教育学研究	1・2前	2			○				1				
	日本語教育法研究（日本語教育観察実習）	1・2前	2			○				1				※実習
	日本語教育学演習	1・2後	2			○				1				
	日本語教育法演習（日本語教育グループ実習）	1・2後	2			○			1	1				※実習 共同
	日本語教育実習	1・2通	2				○		1	1				共同
	日本文化研究	1・2前	2			○				1				
	日本語Ⅰ	1・2前	2			○			1					
	日本語Ⅱ	1・2前	2			○				1				
	日本語Ⅲ	1・2後	2			○			1					
	日本語Ⅳ	1・2後	2			○				1				
	日本事情・日本文化	1・2後	2			○				1				
	異文化コミュニケーション研究	1・2前	2			○								兼1
	対照言語学研究	1・2前	2			○								兼1
	言語コミュニケーション演習	1・2後	2			○								兼1
	英語文化研究	1・2前	2			○		1						
	英語文化演習	1・2後	2			○		1						
	ライティング・スキルⅠ	1・2前	2			○			1					
ライティング・スキルⅡ	1・2後	2			○			1						
プレゼンテーション・スキルⅠ	1・2前	2			○			1						
プレゼンテーション・スキルⅡ	1・2後	2			○			1						
日本型学校教育課程の特徴と展開	1・2前	2			○		1	2					共同	
小計（111科目）	—	0	227	0	—		13	14	5	1			兼9	—
課題研究	課題研究Ⅰ	1前	2			○		13	14	5	1			が <sup>レ</sup> 含む
	課題研究Ⅱ	1後	2			○		13	14	5	1			が <sup>レ</sup> 含む
	課題研究Ⅲ	2前	2			○		13	14	5	1			が <sup>レ</sup> 含む
	小計（3科目）	—	6			—		13	14	5	1			—
合計（114科目）		—	6	227	0	—	13	14	5	1			兼9	—
学位又は称号	修士（教育学）		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							

## I 設置の趣旨・必要性

## (1) 修士課程人間教育専攻設置の必要性和背景

本学修士課程では、これまで我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえ、実践的課題解決に資する研究指導体制を構築することにより、高度専門職業人としての教員の養成に取り組んできた。また、平成20年度の教職大学院設置以降も、大学院学校教育研究科修士課程においては、教科・領域教育等における専門性を培い、優れた教育実践を展開できる能力と、学校や地域で指導力を発揮できる力量をそれぞれ有する教員の養成に取り組んできた。しかし、その間に子供を取り巻く家庭環境や地域社会は変容し、生徒指導や特別支援教育に関わる課題が大きくなるなど、今日の学校教育を取り巻く状況は複雑化・多様化しつつしている。

本学ではこうした状況を踏まえて、従来から修士課程に臨床心理士養成コースを置き、幼児期からの心の教育・カウンセリング・心理療法などを通して、いじめ・不登校・非行などの問題に対応するとともに、一人ひとりが社会に開かれた個性豊かな人間として成長するように支援していくことができるような高度な実践的力量を有する臨床心理士、及び生徒指導・教育相談の実践的力量を有する現職教員の育成を進めてきた。また、平成20年度には、いじめや不登校といった学校における問題を未然に防ぐために行う教育である予防教育とその研究を推進する予防教育科学研究センター（現予防教育科学センター）を開設し、予防教育に係る教育研究を推進する人材の養成を進めてきた。さらに、現代社会における様々な教育課題に対応するために、既存の学問的枠組みを超え、授業実践や学校教育だけにとらわれない、広い視野から現代の教育課題を俯瞰的に捉え総合的に探究するコースとして現代教育課題総合コースを置いている。同コースは平成26年度から、現職教員や教育関係者を対象にインターネットを活用して「学び続ける教員」を支援する「遠隔教育プログラム」を導入し、平成27年度には静岡県教育委員会と学費負担に係る協定を締結し、県の教員の資質向上をめざすための政策に利用されるなど、一定の支持を得てきた。

今日の教育を取り巻く状況を鑑みると、このような本学のコースや教育プログラムが養成する人材が果たす役割は益々大きくなっていくことが予想される。

また、一方、こうした変化の激しい社会の情勢のなかで、一定の成果を収めている日本型の教育システムに対する世界の開発途上国の関心は高い。本学では平成7年度から韓国、中国、アメリカ合衆国等の教員養成大学と国際学術交流協定を締結し、学生、研究交流を行うとともに、独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携し、平成27年度末までの約20年にわたり開発途上国の教育支援のための研修及び技術協力プロジェクトを多数受託し37カ国から約500名の研修を受け入れ、実施してきた（平成27年度実績全国一位）。このような実績から、日本型教育システムを学び、開発途上国の教育力向上に貢献する各国の教員や教育行政職員並びに国際教育協力の専門家といった人材の養成を行うこと、すなわち「日本型教育システムの輸出」を進めることもまた、本学の重要な役割であると考えられる。

以上のことを背景として、本学では、高度専門職業人としての教員の養成を一層推進する教職大学院重点化の一方で修士課程を改革し、現代における様々な教育課題の解決・改善に関して、広い視野から専門的な知見に基づき支援できる人材及び日本型教育システムを学び開発途上国の教育改善を支援する人材を養成するため、既存の修士課程において一定の役割を担ってきたコースやプログラム等を継続・発展させ、人間教育専攻を3つのコース（「心理臨床コース」、「現代教育課題総合コース」及び「グローバル教育コース」）により再編成する。具体的には、現代的な教育課題群を、①「いじめ・不登校・非行・学習や発達上の困難をめぐる課題」、②「授業実践や学校教育の枠組みにとらわれることなく、広く教育・人間・社会環境・文化等の相互のつながりから考察が必要な課題」、③「開発途上国の教育環境や教育資源等をめぐる困難を日本型教育システムに学び克服していく課題やグローバル化する社会に対応した教育力や新しい教育内容の開発に関する課題」の3群に整理し、それぞれの課題群の解決・改善を専門家として支援できる人材を養成するために、「心理臨床コース」、「現代教育課題総合コース」及び「グローバル教育コース」を設置する。

本専攻の3コースをつなぐ本質的な理由について説明する。上記3群に整理した教育課題は、いわば「多様性の受容」が損なわれることにより生じる問題であると捉えている。本専攻で育成をめざす現代的な教育課題の解決に立ち向かう人材には、従来の価値観や枠組みにとらわれないチャレンジ精神や、変化する環境に効果的に対応する姿勢が求められる。そして、本専攻から輩出される人材が、教育に関する既存の価値観や枠組みのもとでもとすればはみ出し「異質なもの」と捉えられてしまう人たちと教育を介して交流する中で、その違いを尊重し受け入れ、違いを積極的に活かすことによって、現代的な教育課題の解決・改善に向けた新たなパラダイムを創出していけると考えた。多様性を受容する人材の育成、新たなパラダイムの教育方法やシステムの開発を目指していくということが改組において本学の構想する「人間教育専攻」の意義であり、本専攻における3コースをつなぐより糸であると考えられる。

なお、「現代教育課題総合コース」については、移行措置扱いとして2年間の時限を持って存続し、条件整理の上で平成33年4月に教職大学院に移行する。

## (2) 育成する人材像

人間教育専攻においては、前述の通り現代における様々な教育課題の解決・改善に関して、広い視野から専門的な知見に基づき支援できる人材及び日本型教育システムを学び開発途上国の教育改善を支援する人材を次の通り養成する。

### ① 心理臨床コース

心の教育・カウンセリング・心理療法・予防教育・発達支援等に関する専門性を有し、学校教育や地域、家庭と連携しながら、いじめ・不登校・非行・学習や発達上の困難などの問題に対応するとともに、社会の中での一人ひとりの個性豊かな人間的成長を支援する高度な実践的力量を有する公認心理師・臨床心理士及び心理臨床学研究者を養成する。

### ② 現代教育課題総合コース

現代社会における様々な教育課題に対して、既存の学問的枠組みを超え、授業実践や学校教育だけにとらわれることなく、広く教育・人間・社会環境・文化等の相互のつながりから現代の教育課題を総合的に探究することができる人材及び教育分野での研究者を養成する。また、時間的・地理的な制約から、研修の機会が乏しい現職教員及び教育関係者等に対して遠隔教育の学修方法を提供することにより「学び続ける教員」等を支援する。

### ③ グローバル教育コース

・ 開発途上国の教員、教育行政職員を主要な対象とし、日本型教育をモデルとした各教科等の指導方法並びに教員養成システムに関する実践的教育を行うことを通して、各国の教育リーダーを養成する。

・ JICA等のプロジェクトを活用して、開発途上国において教育分野における国際協力活動に従事し教育改善を支援する専門家を養成する。

・ 開発途上国では、産業人材育成および科学技術振興のため、教育の中でも特に理数科教育に最も大きな力が注がれている。このことは、本学がこれまでJICAから受託した計79件の研修のうち76% (60件) が理数科に係るものであることにも現れている。また、JICA青年海外協力隊の支援分野の一つである人的資源分野では、理数科教員の派遣が最も件数が多く全体の16%を占め、次に件数の多い日本語教育を大きく上回っている (2018年2月時点)。特にこの5年間に本学が受託したJICA研修 (計36件) は、1件を除きすべて理数科に係るものであり、今後も理数科教育に対する高い需要が継続していくものと考えられる。これらのことから、開発途上国の教育向上に貢献する人材養成の中でも、特に理数科教育の人材養成に大きな力点を置いている。

・ 海外からの児童生徒に対応するグローバルな視野の養成、並びに「外国語としての日本語」を教授することができる日本語教師等の人材を養成する。

・ グローバル化社会時代に求められる異文化コミュニケーション能力の育成など、多様化する教育課題と教育内容に対して学校教員の支援を行える人材を養成する。

本課程では、養成する人材像を踏まえて、アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針) を、次のように定めている。

本学の修士課程では、現代における様々な教育課題の解決・改善に関して、広い視野から専門的な知見に基づき支援できる人材及び日本型教育システムを学び開発途上国の教育改善を支援する人材を養成することを目的としている。

入学者の選抜に当たっては、教育課題の解決・改善に向けて、学校・地域 (国際社会を含む) ・家庭と連携・協働しながら主体的・創造的に取り組んでいこうとする意欲と、高度な専門的知識を探究する高度な研究能力と、その成果を社会に還元するとともに具体的な課題解決に結びつけていこうとする社会的実践力をもった、学校・地域の教育力の向上及び開発途上国の教育改善に積極的に関わる専門家になることを志向する者を基本に選抜する。

また、本課程では、修学の成果の評価と認定に係る基準として、ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) を次のように定めている。

本学の教育課程において、現代の教育をめぐる諸課題の解決・改善及び開発途上国の教育改善を支援できる専門家に必要とされる高度な理論的・実践的な力量として、以下に示す能力を身に付け、所定の単位を修得していること。

① 自らの社会的責務を自覚し、教育及び教育を取り巻く諸課題の解決・改善に向けて、専門家として学校・地域 (国際社会を含む) ・家庭と連携・協働しながら主体的・創造的に取り組むことのできる能力

② 自らの専門分野に関する高度の専門的知識と研究能力とともに、それらを教育課題の解決・改善に結びつけることのできる社会的実践力及び研究成果の社会的発信力

③ 学校・地域並びに開発途上国の教育力の向上という観点から、自己の研究課題と成果を的確に省察し、改善に向けてたえず学びに向かおうとする力

本学の教育課程において、学校・地域並びに開発途上国の教育力の向上という観点を踏まえた自己の研究課題に対する考察を深め、学位論文をまとめ、審査及び試験に合格していること。

## II 教育課程編成の考え方・特色

### (1) 人間教育専攻の教育課程編成・実施の基本方針

人間教育専攻の下にある「心理臨床コース」、「現代教育課題総合コース」及び「グローバル教育コース」において養成する人材像を踏まえ、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を次のように定めている。

本学の理念・目的を踏まえるとともに、現代の教育課題の解決・改善に関して、専門的な立場から支援できる人材及び開発途上国の教育改善を支援する人材を養成するために、カリキュラムを次のような基本的な考え方に基づいて編成し実践する。

#### ① カリキュラムの編成

現代の多様化する教育及び教育を取り巻く諸課題を踏まえ、各コースで育成しようとする人材像と合致した高度の専門性と研究能力を身に付けるとともに、学校教育や地域（国際社会を含む）、家庭と連携しながら現代の教育課題の解決・改善を先導できる社会的実践力を高めることをねらいとする専門科目によりカリキュラムを編成する。

#### ② 教育の実施体制

各授業科目を担う本学教員が、現代の多様化する教育及び教育を取り巻く諸課題についての十分な理解の元、そうした諸課題の解決・改善を支援できる専門家に必要とされる理論的・実践的な力量についての観点や内容を共有し、協働する体制を構築して教育を進める。

#### ③ 教育の評価体制

各授業科目では、本専攻の理念・目的に沿った到達目標を定め、到達目標並びに評価の基準・方法を学生に周知し、成績評価を行うとともに、学生による授業評価を実施する。その評価結果に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで教育の質の保証に努める。

### (2) 教育課程の編成

本専攻の教育課程は、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、各コースの専門分野について、高度の専門性と研究能力を身に付けるとともに、教育課題の解決・改善を先導していく社会的実践力を高めることができるようにカリキュラムを編成している。

#### 1) 専門科目

「心理臨床コース」では、教育課題の解決にあたるための基盤となるこころの多様性への理解を深める授業科目として、「子どものこころへのアプローチ」、「心理教育科学研究」、「臨床心理人間関係（知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害）」を設定する。また、心理支援・心理療法・予防教育・発達支援等に関する専門的な知識と実践方法を修得する授業科目として、「臨床心理面接演習」、「臨床心理基礎実習」、「心理実践実習」、「心理教育科学演習」、「予防教育開発・実施演習」、「コミュニティ障害共生支援演習」等、臨床の知を学ぶことができる多数の授業科目を設定されている。心理学を修めた専門家として現場で課題に向き合えるために、学校教育現場だけでなく福祉・医療現場での生きた学びを積むことが出来るように各領域でカリキュラムが工夫されており、さらに臨床心理学領域では、大学附属の心理・教育相談室での実習を通して心理支援・心理療法の基本的態度を学ぶこともできる。

「現代教育課題総合コース」では、教育、人間、社会環境、自然環境、文化等をつなげて、物事をトータルな観点から考えることのできる人材の育成を目指している。それゆえ、現代社会における様々な教育課題に対して、既存の学問的枠組みを超え、授業実践や学校教育だけにとらわれることなく広い視野から探究することのできる授業科目及び教育課題をもつフィールドにおけるプロジェクト型課題解決学修の授業科目を設定する。自然科学、社会科学等、様々な分野の知見から現代の教育課題に対する総合的、学際的アプローチを学ぶ「自然科学の世界」、「社会認識の方法」、「現代の子どもと学校教育」、「現代学校文化論」等及び、社会的実践力を育成するプロジェクト型の授業科目として、「人間とコミュニケーションⅠ・Ⅱ」、「教育実践フィールド研究（総合）」等を設定する。また、働きながら学び続けようとする者のために、ICTを活用した遠隔教育の学修方法による授業科目を設定する。

「グローバル教育コース」では、第1に開発途上国の教育が抱える困難な課題の解決・改善に資する人材育成のため、国際教育協力及び理数科教育に係る科目群を設定している。理数科教育科目群は、開発途上国における理数科教育改善に対する極めて高い需要に対応するための科目群として特に設けられたものである。これらの科目群は、教育内容や教材開発、指導法等に関する専門的知識と実践方法を修得するための授業科目や日本型教育課程に係る授業科目等から構成されている。実践方法に係る科目では、実践能力の効果的な養成のため、グループで課題を見出し、改善提案としてモデル授業を構成するプロジェクト型課題解決を取り入れている。また、第2の課題であるグローバル化に対応した教育力養成や教育内容の開発を行う専門家を育成するため、異文化理解および日本語教育に係る科目群を設定し、専門的知識・技能、教育内容・教材開発、指導法等に関する専門的知識と実践方法を修得するための授業科目とともに、国際的な協働力や異文化コミュニケーション能力を培うための科目を設定している。実践方法に係る科目では、言語コミュニケーションにおける課題を自ら見出し解決する方法につ

いて考えるプロジェクト型課題解決を取り入れている。

専門科目について、心理臨床コース、現代教育課題総合コースは24単位を履修する。グローバル教育コースは12単位を履修する。

2) 課題研究

現代の教育・研究課題を踏まえ、学生の教育・研究課題に即して開設し、修士論文に発展させる。その際、教育実践活動等（インターンシップを含む）の機会を活用することもできるものとしており、6単位を履修する。

3) 自由選択科目

グローバル教育コースの学生は、6科目12単位を各々の専門や関心に応じて自由に選択し履修する。

(3) 教育課程の特色

1) それぞれのコースで育成する人材像に即して専門的に深く学べる構成

本専攻を構成する3つのコースは、それぞれのコースが担うべき現代の教育課題群を十分に理解し、学校教育を含む広く国内外の人間形成教育と教育課題の解決・改善を支援できる人材を育成するという共通の理念・目的を共有しつつ、Iの(2)で示したとおり、異なる課題群に対応できる専門家の育成をめざすことから、それぞれの独立性を確保しながら専門性を十分に高める必要がある。そのため、心理臨床コースと現代教育課題総合コースは、所属するコースの専門科目24単位の履修を要件とし、グローバル教育コースは、所属するコースの専門科目12単位、その他の専門科目（所属するコースを含む）12単位の履修を要件としている。（詳細は卒業要件及び履修方法を参照）

2) 広い教育的視点が養える構成

専攻の下に置くコースを、その目的や役割で大きくくくすることで、それぞれが育成する人材像を明確にするとともに、学修過程において各専門分野の内容のみを学ぶのではなく、同じ志を持った他専門の学生と問題意識を共有し、専門分野間の相違点を見出しながら学ぶことができるようにしている。

具体的には、専門科目として、各コースの分野（領域）ごとに講義及び演習科目を設定し、それぞれの分野（領域）ごとの専門性を高めることができるようにしている。その一方で、コースを大きくくくっていることにより、専門科目群には分野を超えた幅広い内容の科目が開設されている。学生がこれらの中から、自らの関心に応じた科目を履修することで、結果として、分野を超えた広い視野と高い問題意識を持ち、現代における様々な教育課題の解決・改善に関して、専門的な知見に基づき支援できる教育実践的視点を有した人材の養成が可能となる。

3) 教育課題の解決に向けた社会的実践力を発揮することを求める構成

それぞれのコースが担うべき現代の教育課題の解決・改善を先導していく社会的実践力を高めることができるように、各コースのカリキュラムには、プロジェクト型課題解決学修の授業科目を設定している。

心理臨床コースでは「心理実践実習」，「心理教育科学演習」，「コミュニティ障害共生支援演習」，現代教育課題総合コースでは「人間とコミュニケーションⅠ・Ⅱ」，「教育実践フィールド研究（総合）」，グローバル教育コースでは、「国際教育協力特論Ⅱ」，「教学教育協力教材開発研究」，「理科教育協力教材開発研究」，「言語コミュニケーション演習」，「日本語教育実習」等が設けられている。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【修了要件】</b> 本専攻に2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格すること。</p> <p><b>【履修方法】</b> (心理臨床コース、現代教育課題総合コース) 所属するコースの専門科目24単位、課題研究6単位の合計30単位以上を修得すること。 (グローバル教育コース) 所属するコースの専門科目12単位、その他の専門科目（所属するコース含む）12単位、課題研究6単位の合計30単位以上を修得すること。</p>	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分